



平成28年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月14日 東

上場会社名 株式会社テラスカイ 上場取引所  
 コード番号 3915 URL <http://www.terrasky.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 秀哉  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員最高財務責任者 (氏名) 塚田 耕一郎 (TEL) 03-5255-3410  
 四半期報告書提出予定日 平成28年1月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年2月期第3四半期の連結業績 (平成27年3月1日～平成27年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第3四半期	1,799	62.7	169	184.0	143	232.2	75	—
27年2月期第3四半期	1,105	—	59	—	43	—	△1	—

(注) 包括利益 28年2月期第3四半期 60百万円(—%) 27年2月期第3四半期 △1百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第3四半期	56.99	54.00
27年2月期第3四半期	△1.64	—

- (注) 1. 平成27年2月期第3四半期においては、当社は非上場でありましたが四半期財務諸表を作成しており、株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程」第211条第6項の規程に基づく四半期レビュー手続きを受けているため、平成27年2月期第3四半期の数値及び平成28年2月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載しております。
2. 平成27年2月期第3四半期においては、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。また、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
3. 当社株式は平成27年4月30日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。平成28年2月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の計算においては、新規上場日から第3四半期連結累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年2月期第3四半期	1,615	891	54.1
27年2月期	1,096	470	40.0

(参考) 自己資本 28年2月期第3四半期 874百万円 27年2月期 438百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年2月期	—	0.00	—	—	—
28年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年2月期の連結業績予想 (平成27年3月1日～平成28年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,400	46.4	252	56.4	236	52.7	122	69.1	89.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成28年1月14日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年2月期3Q	1,410,000株	27年2月期	1,180,000株
② 期末自己株式数	28年2月期3Q	40,580株	27年2月期	40,580株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年2月期3Q	1,317,202株	27年2月期3Q	1,104,200株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループが注力するクラウド関連市場におきましては、法人向けクラウドサービスの世界市場が2010年の約410億ドルから2016年には約1,080億ドルに成長すると予測されており（総務省「平成25年版情報通信白書」より）市場の規模は大きく拡大しております。クラウドのコストメリットや信頼性の向上等を背景に、ユーザーの新規ビジネス展開における積極的なクラウド活用や、社内の既存システムのクラウド移行が加速する結果、2019年度までの年平均成長率は21.7%となり、2019年度は2014年度比2.7倍の2兆679億円と2兆円を超える市場規模まで成長すると予測されています（MM総研「国内クラウドサービス需要動向(2015年版)」）。

また、クラウドサービスの中でも、当社グループが主力分野としているSalesforce.com社、及び、Amazon Web Service(AWS)社の全世界売上高は前年同期比130%以上の急成長を続けております。

このような環境の下、当社グループにおいてはクラウド世代のリーディングカンパニー「クラウド・インテグレーター」として、企業のクラウドシステム導入へのニーズ拡大に応じてきたことにより、ソリューション事業におけるエンタープライズ向けのクラウドシステム構築案件が好調に推移したほか、自社製品の導入社数の増加や、保守運用子会社を通じた多角的なクラウドサービスを展開したことにより着実に顧客基盤を拡大し、売上は堅調に推移いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、1,799,019千円（前年同四半期比62.7%増）、経常利益は、143,256千円（前年同四半期比232.2%増）、四半期純利益は、75,072千円（前年同四半期は四半期純損失1,807千円）、となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① ソリューション事業

当第3四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は、大型案件の受注及び受託開発・保守案件の件数の増加等を主因として、1,381,385千円（前年同四半期比71.3%増）となり、セグメント利益（営業利益）は、323,661千円（前年同四半期比52.3%増）となりました。

#### ② 製品事業

当第3四半期連結累計期間における製品事業の売上高は、堅調な契約社数、契約金額の伸長を主因として、417,634千円（前年同四半期比39.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は、136,081千円（前年同四半期比275.5%増）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間の主な取り組みは、以下のとおりであります。

- ・9月には、Salesforce Lightningに対応した画面やアプリケーションを手軽に作成できる「SuPICE（スパイス）」を開発し、2015年12月より米国で日本に先行して提供開始すると発表いたしました。Salesforce Lightningは、セールスフォース・ドットコム社が提供する革新的なユーザーインターフェースとアプリケーションの構築プラットフォームであり、当社が開発したSuPICEは、Lightning Componentsをノンコーディングで作成できる世界初のアプリケーションです。

- ・10月には、サービスマックス社（本社：米国カリフォルニア州）と日本国内における初めての販売代理店契約を締結し、サービスマックス社のフィールドサービス業務支援クラウドサービス「ServiceMax」の日本国内での販売および導入支援を開始いたしました。

- ・11月には、保険代理店向けソリューション「Insurance Agency Solution」(IAS)を開発、提供開始しました。IASは、保険業法の改正に対応した、業務プロセスや募集業務の再構築を短期間かつ低コストで実現する保険代理店向けのクラウドサービスです。2016年5月に実施される保険業法の改正によって、保険代理店は意向把握・情報提供、体制整備、帳簿書類の備え付けや事業報告書の提出などが義務づけられます。そのため保険代理店は、多様な業務領域をカバーしつつ、全国に点在する拠点に展開できる新たなシステム導入を迫られています。このようなニーズに対し、テラスカイはIASを柔軟性の高いセールスフォース・ドットコムが提供するクラウド基盤上に構築したことによって、短期間かつ低コストで改正保険業法に対応でき、ビジネスの変化や、監督官庁のガイドライン変更にも迅速な対応を可能としました。IASは既に2社が同ソリューションの採用を決定いたしております。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末より441,545千円増加し、1,269,439千円となりました。これは主に、現金及び預金が163,541千円、売掛金が223,680千円増加がしたこと等によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末より77,151千円増加し、344,888千円となりました。これは主に、本社移転に伴い敷金及び保証金が28,517千円、有形固定資産が25,574千円増加した一方で、投資有価証券が21,317千円減少したこと等によるものであります。

(繰延資産)

当第3四半期連結会計期間末における繰延資産は、前連結会計年度末より214千円減少し、990千円となりました。これは、子会社設立に伴う繰延資産の償却を計上したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末より66,463千円増加し、685,771千円となりました。これは主に、未払法人税等が68,054千円減少した一方で、買掛金が96,213千円、前受金が48,446千円増加したこと等によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末より31,809千円増加し、38,356千円となりました。これは主に、その他の固定負債が37,509千円増加した一方で、返済により長期借入金が5,700千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より420,209千円増加し、891,191千円となりました。これは主に、資本金及び資本剰余金がそれぞれ179,860千円増加、利益剰余金が75,072千円増加した一方で、少数株主持分が15,347千円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月期の業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成27年4月30日の「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(平成28年1月14日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	450,013	613,555
売掛金	309,453	533,134
仕掛品	31,765	39,230
その他	36,661	83,519
流動資産合計	827,894	1,269,439
固定資産		
有形固定資産	10,850	36,425
無形固定資産		
ソフトウェア	50,263	40,481
その他	17,113	71,493
無形固定資産合計	67,377	111,974
投資その他の資産		
投資有価証券	65,770	44,453
敷金及び保証金	120,817	149,335
その他	2,920	2,700
投資その他の資産合計	189,509	196,489
固定資産合計	267,737	344,888
繰延資産	1,205	990
資産合計	1,096,837	1,615,319
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	66,059	162,272
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	9,100	-
未払法人税等	105,015	36,961
前受金	83,787	132,233
その他	155,346	154,304
流動負債合計	619,308	685,771
固定負債		
長期借入金	5,700	-
その他	847	38,356
固定負債合計	6,547	38,356
負債合計	625,855	724,128
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	274,175	454,035
資本剰余金	134,475	314,335
利益剰余金	50,039	125,111
自己株式	△32,588	△32,588
株主資本合計	426,100	860,892
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12,838	13,603
その他の包括利益累計額合計	12,838	13,603
少数株主持分	32,042	16,695
純資産合計	470,982	891,191
負債純資産合計	1,096,837	1,615,319

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	1,105,722	1,799,019
売上原価	617,557	1,028,969
売上総利益	488,165	770,050
販売費及び一般管理費	428,436	600,425
営業利益	59,728	169,624
営業外収益		
為替差益	454	-
受取手数料	-	1,400
その他	55	369
営業外収益合計	509	1,769
営業外費用		
支払利息	2,292	1,695
持分法による投資損失	13,948	21,317
株式交付費	241	4,716
その他	638	407
営業外費用合計	17,120	28,137
経常利益	43,117	143,256
特別損失		
持分変動損失	153	-
特別損失合計	153	-
税金等調整前四半期純利益	42,963	143,256
法人税等	49,380	83,532
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△6,416	59,724
少数株主損失(△)	△4,609	△15,347
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,807	75,072



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	△6,416	59,724
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,916	764
その他の包括利益合計	4,916	764
四半期包括利益	△1,500	60,489
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,109	75,836
少数株主に係る四半期包括利益	△4,609	△15,347

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は平成26年10月10日付で、salesforce.com, inc. から第三者割当増資の払い込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が26,875千円、資本準備金が26,875千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が274,175千円、資本剰余金134,475千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は平成27年3月26日及び平成27年4月10日開催の取締役会決議に基づき、第1四半期連結会計期間において有償一般募集による新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ156,400千円増加しております。

また、平成27年6月1日付で、大和証券株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第2四半期連結会計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ23,460千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が454,035千円、資本準備金が314,335千円となりました。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2.
	ソリューション 事業	製品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	806,319	299,403	1,105,722	—	1,105,722
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	806,319	299,403	1,105,722	—	1,105,722
セグメント利益	212,511	36,240	248,751	△189,023	59,728

(注) 1. セグメント利益の調整額△189,023千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2.
	ソリューション 事業	製品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,381,385	417,634	1,799,019	—	1,799,019
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,381,385	417,634	1,799,019	—	1,799,019
セグメント利益	323,661	136,081	459,742	△290,118	169,624

(注) 1. セグメント利益の調整額△290,118千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。